



工
事
情
報

右岸天端に到達！
コンクリート打設 進捗率約78% 打設量約49,000m³



ダム完成後の標高

ダム上流から (流向→)



右岸付替村道から (流向→)



左岸から (流向→)



右岸下流から (流向→)

打設が順調に進んでいる右岸側については、3月7日に天端（標高100m）に到達しました。

堤体コンクリート打設は、しばらくお休みとなります。骨材を運搬していた大型ダンプもしばらくお休みです。通行にご理解ご協力をいただきありがとうございました。また、左岸打設が再開した際には、ご理解ご協力をお願いします。

3月といえば卒業シーズンです。現場で働いていた作業員さんも和食ダムを卒業して別の現場に移る方がいます。これまでご苦労様でした。新しい現場でも腕を奮ってください！和食ダムの現場でまたお会いできるのを楽しみにしております。



現場では今後も、基礎処理工（貯水池の水がダムの底から漏れないよう地盤改良する工事）を引き続き進めていきます。

芸西村議会議員の現場視察がありました。



3月1日に芸西村議会の議員さんによる現場視察が実施されました。村長さん・副村長さんも参加され、村役場での概要説明の後、現地の右岸展望台へ移動し、現場を視察されました。左岸側の追加掘削について、議員の皆さまから熱心なご質問をいただきました。少しでも早く左岸の追加掘削を終え、残る左岸側の打設を再開できるよう村役場や地元の皆さまのご協力もいただきながら和食ダム建設事務所・本体工事JV一丸で取り組んでいきます。



芸西村の史跡紹介【第9弾】

「安岡氏と安岡^{きんま}金馬顕彰碑」



位置図

馬ノ上の安岡家は吉良川城主であった安岡氏の出で、長宗我部のころ中の城城主となったが関ヶ原の合戦後浪人となりました。

山内家の世になり、三代源兵衛が馬ノ上庄屋に任せられ、その後代々庄屋職を受け継いだ。八代貞衛門の時に所替えになり、各地の庄屋を務めた。

金馬は九代庄屋忠郷の二男として生まれ、忠郷が田野在勤中、中岡慎太郎らに影響を受け勤皇を志すようになりました。

藩主警護のため五十人組に加わり、勝海舟に学びました。禁門の変(1864年)に参加し、やがて坂本龍馬の海援隊士となり、その後明治になってから海軍軍人になりました。

顕彰碑は横浜市在住の子孫たちによって平成8年に中の城に向き合う県道沿いに建立されました。題字は先祖が安岡氏に繋がる作家、みやじ さいちろう 宮地佐市郎によるものです。

次回は「志士と顕彰碑」です。



顕彰碑



顕彰碑から望む「中の城」跡

和食ダムの近くに、ツツジのスポットがあるのをご存知ですか？



昨年の開花時写真



ツツジスポットの場所
そこからは、ダム工事に使用しているタワークレーンの頭が見えます。



今年は、4月上旬頃に見頃をむかえそうです。
是非満開のツツジを見てみてください。詳細の問合せは和食ダム建設事務所までお願いします。